

【中学生の部】鹿児島県知事表彰

「もしも」のために

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校 1年 ^{あきば}秋葉 ^{だいち}大馳

今年は、大きな土砂災害が起こった。それは、西日本豪雨だ。僕の住んでいる鹿児島ではそれほど影響が無かったが、広島県や岡山県では、たくさんの尊い命が奪われた。

ぼくの家は山の上にあるので、土砂災害は起こりにくい。しかし、家で避難場所を話し合ったり、いつでも災害が起きてもいいように、バックなども準備したりしている。

なぜ準備をするのか。それは、「もしも」のためにだ。「天災は忘れた頃にやってくる」ということわざがある。災害は人々が忘れた時にまた起こるという意味のことわざだ。

つまり、日頃から防災意識を高めて生活していくことが大切だと思う。起こってからではなく、〇〇が近づいて来て被害が起こりそうだから準備をしよう。また、指示がでて、すぐ避難できるようにしようとする心がまえが大切だと思う。

そのような心がまえをすることで、少しでも自分の生きられる確率が高くなると思う。

テレビで、土砂災害で埋まった家を見たことがある。まるで、家がおもちゃに見えるほど、土砂災害のエネルギーはすさまじく大きかった。ある人が、

「自分の家が一番安心だよね。」

と言っていたが、ぼくはその考えは正しくないと思う。早め早めに行動することが大切ではないかと思う。

また、地域の人々の絆も大切だと思う。お互い

「〇〇さん、急いで早く逃げましょう。」

などの声かけをすることは大切だと思う。地域の人々の仲が良いと、お互い声をかけ合い、そのおかげでたくさんの命が救えると思う。また、近所に、おじいさんやおばあさんが住んでいたら、

「〇〇さん、一緒に避難しましょう。」

と言って高齢者と一緒に逃げると、たくさんの人が助かると思う。

ぼくの住んでいる鹿児島では、平成五年の八月六日に、「八・六水害」という集中豪雨があった。ぼくの住んでいる鹿児島市吉野町という所では、大きな土砂災害があった。小学校の時、八・六水害の土砂災害から人々を救った人の動画を見たことがある。その人々を救った人は、電車の車掌だった。土砂災害が起こった場所は、ある駅の近くだった。その駅には、車掌が乗っている電車が止まっていた。その人は、このままでは乗客が危ないと思い、電車に乗っている乗客をがけから離れた安全な場所まで連れていったのだ。この車掌は、周りの様子を見て、判断し、乗客を避難させたのだ。その行動により、乗客のたくさんの命を救ったのだ。

ぼくも、災害が起こった時は、周りの様子や状況を見て、自分の命は自分で守れるようにしていきたいと思う。

こういう災害は、前で述べた通り忘れた時にやってくるものなので、「もしも」のために準備をして、地域の仲をしっかりと生かしてお互いに助け合いながら避難するのが理想

のあり方だと思う。

そのために、少しでも日々の災害意識を高めて生活していくことや、事前にハザードマップを見たり、避難場所を家族などで確認することなどが大切ではないかと思う。また、災害が起こった時は、周りの様子を見て自分の命は自分で守れるようにして、避難の時は、地域の仲をしっかりと生かすことが大切だと思う。

「もしも」のために。